

歴史まち歩き

名古屋城の東に広がる 市内最大級の寺町と飯田街道をめぐる

15

高岳・東寺町

コース【地下鉄高岳駅▶地下鉄新栄町駅】

徳川家康により東の防備として建設された東寺町は、駿河町を起点とする飯田街道(駿河街道)に交差する禅寺町筋と法華寺町筋に沿って寺院群が構成されています。

48の寺院が集められ、大変賑わっていた場所で太平洋戦争によって焼失するまで原形をとどめていました。名古屋市内最大の寺町です。

1 高岳院

慶長13年(1608年)平岩親吉が、家康の第8子仙千代の菩提を弔うため甲斐から清洲に移建。慶長16年、清洲越しで高岳院の名で建造され、その院の名称の名で建造され、その院の名称が町名にもなっています。

「高岳町(たかおかちょう)」とされたのは、明治4年以降のことで、「岳」を「おか」と読むようになった経緯は明らかになってはいません。その後、昭和51年の町名変更により高岳院辺りは泉2丁目と変わっています。

2 富士神社

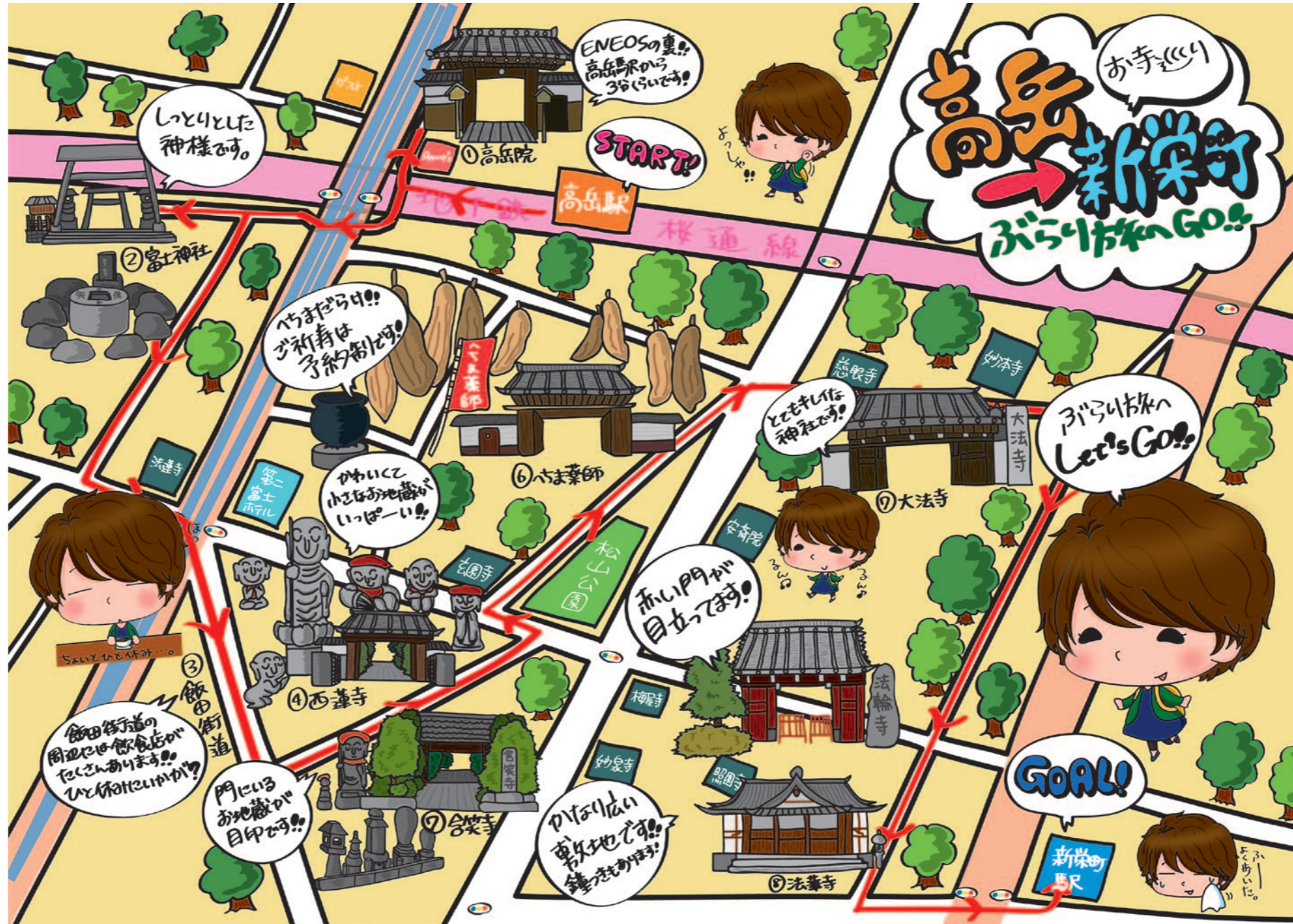
富士神社の祭神は木花咲耶姫命(コノハナサクヤヒメミコト)で応永5年(1398年)の創建です。古くから富士浅間宮、または富士権現といわれていました。名古屋城築城の折、浅野幸長がこの社域に普請小屋を設けたため社は西区、浅間町に遷されましたがその後再びこの地に戻り、明治より富士神社と称されるようになりました。境内には今も築城の残石があります。現在の神殿社殿は氏子により昭和30年に再建されました。

3 飯田街道

徳川家康の駿府への道と塩付から信州飯田への塩道であり、尾張名古屋と信州飯田を結んでいる街道。

4 西蓮寺

浄土宗京都知恩院の末寺です。庫裡の裏に二河百道の庭園があります。明治21年、浄土宗学愛知支校が造られ、明治32年、車道校舎へ移転。明治42年には東海中学校となりました。建屋を使用して、明治41年、東区創立の役所として使用されました。



5 含笑寺(がんしょうじ)

大永8年(1528年)織田信秀が生母含笑院の菩提を弔うために創建しました。織田信秀公が生母(信長の祖母)の戒名「含笑院殿茂獄涼繁大禅定尼」より寺号となっています。含笑花は別名バナナツリーともいわれ、花の色も香もバナナに似ており、毎年5~6月になるとほのかに甘い香りが漂います。本堂で落語会が開かれてきました。

6 東充寺(へちま薬師)

へちまを供えて疝気(せんき)の平癒を祈る民間信仰で知られています。別名「へちま薬師」と呼ばれています。特に疝気を病む人にご利益があると言われ、病氣平癒を祈願する際は門前の花屋さんでへちまを買い、折らないように病人の患部を撫でて寺務所に申し出ると祈願してくれます。

8 法華寺

日蓮宗法華寺には信長を言葉で納得させた傑僧がいたという話が残っています。1579年、信長の命によって、その勢力の鎮圧を目的に法華宗と日蓮宗に宗論を行わせた安土宗論が行われました。安土宗論が行われました。この法華寺5世日陽が理を尽くして信長を説得。日蓮宗の安泰を果たしたのでした。

法華寺町由来の石碑

清洲越しの際、城の防衛上の見地から広い境内を持つ寺院、約40ヶ寺が東寺町(東区東桜区周辺)に配置されました。特に、この小川町筋は法華寺町と称されました。

7 大法寺

室町初期の応永33年(1426年)清洲に建立されました。慶長16年の清須越により現在の位置に移りました。この法華寺町は昔の街道を利用したようでこの寺の老松は街道の名残と伝えられています。都市計画の一環として墓地の平和公園移転、道路の新設などにより寺域も縮小され、山門も南に移されました。